

平安神宮と神宮神苑

平安神宮は、1,000 年以上前の京都の天皇御所を 8 分の 5 の大きさに復元したものです。

神宮を囲む広々とした日本庭園は、一般に公開されています。

二階建ての応天門を抜けると、装飾が施された複数の建物が並び、壁で囲まれた広い中庭へと出ます。この中庭は、天皇が国事を司っていたであろう天皇御所の正庁である朝堂院をモデルにしています。応天門の真向かいにある大きな正殿は大極殿で、玉座が置かれていた建物を復元したものです。

神宮神苑への入り口は、大極殿前の左側、白虎楼の隣にあります。遊歩道は四つの庭園に通じています。庭園にはそれぞれ、異なる時代の日本の美意識や日本庭園の様式美の特徴が映し出されています。南神苑の曲がりくねった細い道、可憐な花々、そして八重枝垂桜は、平安時代（794～1185）を想起させ、また、東神苑の大きな池を中心に、優美な技巧を凝らした建物が囲む庭園様式は、江戸時代（1603～1867）に流行していました。

平安時代（794～1185）は約 400 年続き、日本史上、芸術や文化が大きく開花した時代でもありました。現在、京都として知られる平安京は 8 世紀に造営され、1868 年まで天皇の御所であり続けました。その後、1869 年に政府が東京に移りました。

平安神宮の祭神は、平安時代（794～1185）の最初の天皇である桓武天皇（737～806）と、平安京（京都）の最後の天皇となった孝明天皇（1831-1866）です。平安神宮は、平安遷都 1100 周年を記念し、1895 年に創建されました。